

令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

大阪市立栄小

学校

児童数

31

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	17.71	17.43	32.39	40.00	42.00	9.44	129.57	26.83	49.17
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.76	51.54
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
女子	17.13	16.00	31.06	35.06	31.44	9.61	118.44	13.56	48.07
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97

結果の概要

体力合計点は、男女ともに大阪市平均・全国平均には届かなかったが、「握力」「50m走」「ソフトボール投げ」の3項目で大阪市平均・全国平均を上回った。「立ち幅跳び」の平均値が男女ともに低い結果となったため、対策が必要である。

質問項目「運動やスポーツをすることは好きですか」の回答において、男子は肯定的な割合が100%、女子は87.6%であり、ともに大阪市平均・全国平均を上回った。ただ、女子の最も肯定的な回答の割合は43.8%であり、大阪市・全国平均より10%程度低い傾向がみられた。男子に比べて、女子は運動やスポーツが好きな児童が少ない状況であった。

1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合は男子が14.3%、女子は28.5%であり、大阪市・全国よりも割合が高い結果が表れた。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

今年度は「大なわ月間」の取組に短なわの取組についても導入したことで、児童同士が「やってみたい」「できそう」と意欲を高める姿が見られた。またジャンピングボード・移動式サッカーゴール・ジャンピンググホッパー等の器具を使いやすく配置したことで、多様な運動が展開できた。また、教職員が休み時間や昼休みを活用して積極的に児童と共に体を動かしたことで、異学年での遊びが広がり、外に出て体を動かす児童の割合を高めることができた。

質問項目「体育の授業は楽しい」について、肯定的な回答は男子で100%、女子は93.8%であり、授業の質の向上に関しても、成果が表れていると考える。

一方で、20mシャトルランや立ち幅跳びの平均値は、男女ともに全国平均を大きく下回っている。持久力を高める運動を引き続き取り入れ、運動能力を高めると同時に、体の使い方についても実践を交えて指導していく必要がある。

各種運動週間や強調週間においては、「がんばりカード」を活用するなど、児童のがんばりを可視化しながら取組を推進してきた。縦割り班活動や異学年交流を増やして運動集会の内容を充実させ、今後も児童が体を動かす喜びを味わえるように、強化していく。